

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

## 調査で分かる若者の本音と傾向

新型コロナ感染症も重症化リスクが少なくなり、感染症分類が5類に移行となりました。新型コロナ禍では、人との接触が大きく制限され、職場環境が悪くなつたと言う声も多くありました。又、Z世代と言われる若い社会人は先輩社員と積極的に交わる事を嫌う傾向があり、会社内でのコミュニケーション不足から業務に支障をきたすのではと不安を感じている人も多いのではないでしょうか。

今回は、JMAM(株式会社日本能率協会マネジメントセンター)が、新入社員とその指導者世代に向けて調査した「イマドキ新入社員の仕事に対する意識調査2021」の結果を踏まえて、新型コロナ禍で働いていた人々の意識について、特に働き方とコミュニケーションに絞って分析してみたいと思います。これにより、今後の職場環境などの改善に繋がればと考えています。

### イマドキ新入社員の仕事に対する意識調査

仕事では「仕事環境の心地よさ」を重視する

上司・先輩比

**新入社員 2.2倍**

在宅勤務やフリーアドレスが進むことは歓迎

A YES

**74.9%**

会社で「ワーケーション」が推奨されるならば利用したい

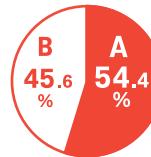
A YES



「ポストコロナ」の働き方

A できる限り出社

B テレワーク(在宅勤務)を基本とし、出社は最低限度



報告・連絡・相談をするのに、有効と感じるのはどちらですか

A 対面

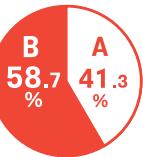
B チャットツール



どちらの会社・職場を好みますか

A 個人の裁量に任せられる

B チームワークを重視する



調査結果を見ると、若い世代では「仕事環境の心地よさ」を求める傾向が増えて来ており、上司や先輩世代と比較して2.2倍となっています。在宅勤務やフリーアドレスが進むことは約75%が歓迎し、また、ワーケーション等への利用意向も約72%と世代別で比較して最も高い結果となりました。

一方で、ポストコロナの働き方としては54.4%が「できるかぎり出社したい」と回答し、「報告・連絡・相談をするのに有効と感じるのはどちら」の質問にもチャットツールよりも対面を選んだ回答が多かったです。対面でのコミュニケーションの有効性を実感し、その機会を求めていると思われます。また、58.7%が「個人裁量」よりも「チームワーク」を重視した会社や職場を好むと回答した若者が多くいました。

働き方としては「自宅(在宅勤務)」と「出社」を使い分けるハイブリッドな勤務を求めていることが分かり、仕事上でコミュニケーションでは、他人との繋がりを求めている傾向が伺えます。

ただ、別のアンケート調査結果(キーマンズネット編集部

「IT人材と働き方に関するアンケート」2023年2月実施)を見ると、「職場の飲み会には行きたくない」という質問では、"どちらかと言えばそう思う" "そう思う" の回答が、イマドキ世代だけではなく全世代で約50%となっていました。新型コロナ禍を過ごしてきたことによる影響かもしれません、いわゆる「飲みにケーション」では社員とコミュニケーションを図ることは望めなくなっているように思います。

当社でも、ポストコロナに向け、事務所のレイアウトを変更し社内でのコミュニケーションを行いやすいようにフリースペースや小さなブースを設けたり休憩場所を充実させました。さらには、コミュニケーション・ツールとしてリモート内線電話にも活用できるトータルコミュニケーション・ツール(UNIVERGE BLUE)を導入することで、スマホ、タブレット、PCを選ばずに様々な場所や場面でコミュニケーションを図れるようになりました。今後どのようにコミュニケーションが浸透するかが楽しみです。